自然環境が先づ前提として一應考へられねばならない所であり、本書の卓越も一つはこの點より來つてゐる。又著者は本書を自ら顯微鏡的研究と稱されてゐるが、あらゆる文獻を渉讀する歴史家の立場としては正に而あるべきであらう。しかし人文地理としては望遠鏡的研究が更に必要ではなからうか、この點往年社會學が歴史より受けた批判にも一脈通ずる所あり、地理學者が歴史を解するに越した事はないけれども、それが歴史家と同じ程度である事は必しも要求せらるべきではなからう。著者の立脚される所は歴史學に於ける歴史地理の立場であり、地理學に於ける歴史地理の立場――これが本來の人文地理の立場であるが――とは嚴密には相異なるものである。（生活社版、三三三頁、地圖、寫眞挿入定價四圓）〔米倉二郎〕

Eckert-Greifendorff, Max: Kartographie; Ihre Aufgaben und Bedeutung für die Kultur der Gegenwart. Berlin, Walter de Gruyter u. Ko, 1939. 437 s.

著者エッケルトは獨逸の地理學者であり、殊に地圖學者として世界的に著名な人物である。若くしてライプツィッヒに遊學し、近代地理學に於ける泰斗ラッツェル教授の指導を受けた。その後一九〇七年以來はアーヘンにあつて學生の指導に任じ、爾來三十年、地理學の各分野に顯著な業績を擧げ、老いて益々碩學、その精力と熟意とを擧げて學界にまた教育界に活躍しつゝあつたが、一九三八年十二月、七十一歳の高齢を以て學界痛惜の中に長逝したのである。

彼の活動的な生涯を通じて著しい事は、民族愛・祖國愛の熱誠に裏付けられつゝ絶えず清新に燃え續けたその研究心と、極めて該博な知識の迸りが、多方面の著述となつて現れて居ることである。彼の師事した偉大なる地理學者ラッツェル教授の影響を多分に受けて、人文地理學殊に經濟地理學に多大の關心を有し著書も多かつた。また植民地問題に注目し、殊にドイツの植民地に就ては深甚の關心を抱き、貴重な研究論文を發表して居る。斯かる基礎的な研究に身を投ずる反面に於て、地理教育にも注意を拂ひ、各種の獨特な教科書並に地圖を公刊して學生の教導に深く顧慮する處があつた。

併し乍らエッケルトの最大の業績としては、やはり地圖學に關するものを擧げなければなるまい。抑々彼が地圖に興味を抱き始めた動機といふのは、ラッツェル教授の助手を勤めて居た當時、師の命を承けて各種の教授用地圖を作製するに當つて、實際上種々の困難に直面しつゝ色々工夫を凝らしたことに胚胎するのであり、在來坊間の地圖に不滿を感ずると共に、地圖學の確立を念願するに至つたものである。

既に一九〇七年には「科學としての地圖學」なる論文を發表してこの方面に對する彼の意圖と抱負とを吐露して居る。爾來彼の生涯を通して、教育並に研究領域に於ける一科學として地圖學（彼の所謂 Kartenwissenschaft）を確立し、地圖の文化的社會的意

義の重要性を認識せしめる事が、地圖に關するその著作の一貫した目的となつて居る。

世界大戰の勃發は併し乍らこの種の仕事を一時中絶するの已むなきに至らしめた。生來の熱血漢で愛國心の旺盛なエッケルトは直ちに軍の測量部に身を投じ、軍用地圖の作製に從事して顯著な功績を擧げた。かくて戰爭の終熄と共に、再び自己の意圖を貫徹すべく地圖研究に當つたのであるが、地圖に關する廣範な體驗と該博な知識の集積とは、遂に集成せられて二卷の大著となつて現れた。"Die Kartenwissenschaft; Forschungen und Grundlagen zu einer Kartographie als Wissenschaft. 1921, 25." である。莫大な資料を引用しつゝ地圖學に關する現狀を網羅すると共に、地圖學を科學として確立し、進歩の道程とその目標とを開示するといふ發展史的な、また認識論的な意圖の下に書かれ、これによつて地圖學の確立を見ると共に大學に於ける講座に地圖を加ふべしとする要求に基礎を與へるに至つた。後に一九三六年には Göschen の叢書 "Kartenkunde" の中に、地圖學に於ける最も重要なる思想を小册に纒めて公にして居る。

地圖學に關するエッケルトの著作としては、上記の Kartenwissenschaft 及び Karteukunde が代表的なものとして指摘せられるであらうが、前者は二卷の大著であり殊にその文章には可なり難解な表現法が多く、相當に讀み辛い感じを免れない。また後者は要領よく纒めた便利なものであるが、頁數に制限せられて論じ盡くされて居ない憾があつた。茲に紹介するのは、エッケルトの最後の作品である。その意圖する所は前二者と同樣、地圖學をあらゆる面から學として構成確立せしめ、歷史的發展過程からして地圖學に新目標とその道とを指示し、研究對象として、殊に現代の文化的要素として、地圖の有する意義を開陳し、尙ほ國家社會主義的な獨逸國家に於ける使命の一つとして、地圖學的な活動を提起するにあると思はれる。その內容に於て——

先づ最初の二節は「地圖學の根本要素と原則」並に「地圖の構成要素であり、特別に新しい論旨は見當らないが、此の書に於て著者の對象として居るのは專門家ではなく、寧ろ一般の讀者である關係上地圖學とは何であり、また如何にあるべきかを序論として最初に理解せしめる事は不可缺であつたと思はれる。」

是に次ぐ第三節では「諸般の研究に於ける地圖」として、地圖がそれ自身研究の對象となるのみならず、各種の學的研究分野に於ける補助手段として、貢獻する所大なることを論述して居る。一地域に於ける文化的現象が如何なる姿となつて一枚の地圖上に表現せられて居るものであるかに就ては、第四節「文化の反映並に文化の負擔者としての地圖」に詳論せられて居り、人口圖の如きを始め、經濟現象、工業立地に關する諸種の分布圖の外、航空地圖海圖にも言及して居る、最後の第五節は「政治並に教育に於ける地圖」であり、初に「武器としての地圖」を論じ、轉じて內外の政策に於て地圖の果すべき重要なる使命を提起して居る。國家に對し地圖學を通じて實際的に寄與せんとする著者の熱意が見られると共に、地理教育に對する著者の配慮も變りないものとして現れて居る。

これらの敍述に際しエッケルトは彼が一九二五年に "Kartenwissenschaft" を公刊して後、新に現れた地圖類を概觀し、何等かの意味に於て注目すべきものは悉く指摘して居るのであり、その博識と敍述の多面性とは依然として光彩を放つて居る。併し乍ら、その文章の激しい表現は地理學に縁遠い讀者を刮目せしめるに足るであらうが、專門家の側からは異論を惹起する恐なしとしない。文獻の註記は全然省略せられて居り、多少呆氣ない感じでもあり、豐富な資料も今少し纒め得る餘地もあつたらう。併し、全體を通じて言ふならば、敍述が比較的平易で理解しやすく記述の分量も手頃であり、その生涯を地圖學に捧げたこの老大家の最後の贈物として地圖に關心を有する者はもとより、他方面一般の讀者も啓發せらるべき所多大であらうと思はれる。（丸善扱弐拾壹圓）〔三上正利〕

大谷光瑞興亞計畫

大谷光瑞

『大谷光瑞興亞計畫』は全十卷のところ既刊六卷で、十五篇に分れ、支那の將來に於ける施設、支那治政の要諦、支那新首都と海港、錢塘江の水利、淮河の水利、海南島開設計畫、嶺南の水利、廣東及珠江三角洲の水利、揚子江の水利、黃河の水利並河北の水利、各省の水利、河江の航運、歐亞連絡鐵道計畫、近海航運港灣計畫、熱帶農業（既刊四章）等の內容を有し、最後の熱帶農業篇は未完なれども今後續刊の分を加へて、全四卷をこれに費される豫定のもので、熱帶農業に對する著者の經驗と抱負と意氣とを窺ふに足り、蓋し全篇の壓卷と言ふべきか。特に南洋の氣候に就いて實際的なる立場より解說を施せる一章は、從來のかゝる種類の文獻の缺點を或る程度まで補ふものであり、著者の南洋避暑論に對しては双手を擧げて贊成とまでは行かざるも、通常一般の南洋觀を改めさせるに效能がある。我が國從來の北主南從主義を難じた一節は、短いながらも讀者の心を打つものがあり、『滿洲すら强て米作せしめんとす。而も滿洲に於ても、奉天・熱河の如きやゝ米作に堪ゆる地方は移民を奬勵せず。北滿にのみ移民を集中し而も米作を求めんとす。我政府は農業に對しては極端なる天理に背反せる行動を國民に强制せり。この懲罰は今日の食料品缺乏を覿面に現出し、國を擧げ之に苦しまざるなく、世論は喧々皆之を口にせざるなし。』とあるは、ジヤバ、チスルベンに農園を經營する著者の敢て我が田に水を引く言とのみ、見逃すべきで無いと考へられ、農業專門家の間に東北北海道方面に於ける米作不適論が叫ばれる事のあるのと對照して、大いに考ふべき問題と思はれる。要するに『大谷光瑞興亞計畫』は、新しい計畫性、それも極めて實行可能と思はれる計畫性を多分に包含する、緻密な支那及南洋地誌と言ふべきで、此の方面に關心を有する。地理學徒の一讀に値すべき力作である。行文また大谷氏一流の極めて簡なれども要を得たる、讀者をして倦まざらしむるものがあるけれども、たゞ往々にして極めて難解なる字句を挿入する癖があつて、殊に序文の難解にして怪奇複雜なるは、初學者をして目を蹠らしむる、衒學癖